



千厓文庫  
文庫24  
A944



雅  
版

三九二四

三十四  
字  
集

文庫24  
A944



南朝記雅昭序



雅昭

夫果神津御之同靈既也。とて分和御も類之以  
 周ニ様世ニ起るやうとてなな天ノ仁和御乃法御存  
 水もやうとてさうしにあらむ。とてを運にあらむ。とて  
 ろく。とて南の善好。書。まよと想像。とて自然活らん  
 時のま。い。とてやる。なり。吊。知。る。ん。事。と。あ。く。は。さ。を。  
 も。と。た。ら。り。点。女。御。あ。ま。と。い。ま。る。の。は。い。と。ま。く。さ。ら。り。あ。ら。ん  
 くの。い。ひ。を。も。と。あ。ら。ま。う。一。巻。よ。は。い。ら。る。相。之。ま。ま。は。は。陽  
 の。名。の。思。ね。と。集。り。く。東。音。と。り。の。付。ら。る。双。休。と。さ。ま。ま  
 う。く。と。い。ひ。く。と。ま。は。ら。る。ま。ま。の。い。ら。る。い。ら。ん































又さきこいね渡橋の邊火の初来し何東の道と云ふ  
此堂の終り石とくも是こいね唐の仏二季紀南の焼り  
岡は檀金の新山紙の片々ぬくたわ柏子の針とを結ま  
春日節  
大さ丹上東と云ふとく昔にけさ節とて  
是もさきも大明神にけさ山紙向ふけさ  
氏人施さくも本針の煮乃少紙と依とくもをさ  
とことふるさ、但さ節の針秘けけさも指に和  
引生駒村より然らるも長の時唐八景の才一也  
病とくも本の下をさきさ方のるを中らるる針  
春日のこいね此も出とくも今にさきさきさき  
とくも

さきこの節もさきさきさきさきさきさきさきさき

厚森

さきさきさきさきさきさきさきさき  
さきさきさきさきさきさきさきさき  
さきさきさきさきさきさきさきさき

雪消澤

さきさきさきさきさきさきさきさき  
別の森のこいねと云ふさきさきさきさき  
さきさきさきさきさきさきさきさき

御旗本

お月吉日 着官法衣の付け取とてこの  
沙殿とて月女六日の法衣は大明神に奉よ  
津心は律と社衣は律と衣は律奉とて女衣の取より

礼相子とて月女七日社衣の取取相候て衣類とて人下流

竊るるも徒然愚頭とて一知もせず其地跡亦なく今人  
の罪も二百あるも其地は相撲するも鷹養の掛布とせり  
行司の中絶は也とて亦或るもその一も此の秘略と  
法王とて其地の人の山殿の山前(泰深)とてその一も  
そ節まん食のそわらう意出万のそらに信くとて  
今への舞相海で地亥の列に還沛女沛出還沛乃そ  
海王も其意とて名樂地とて知る感涙袖とてうかせり  
翌の女八日能も四座の様とて田舎法師打入とて  
淨土不とて九月朔日(祭)とて時於人  
乃樂とて其地のもみはとて山張不の繩法と

### 水室社

とてその地より東に北の之津とて其地早くとて  
けり其地九とてその地より東に北の之津とて其地早くとて  
そ地不成地とてその地より東に北の之津とて其地早くとて  
~~~~~とてその地より東に北の之津とて其地早くとて

### 古塚

腸母子の墓とてその地より東に北の之津とて其地早くとて  
田舎の方に其地跡とて其地より東に北の之津とて其地早くとて  
その地より東に北の之津とて其地早くとて其地早くとて  
とてその地より東に北の之津とて其地早くとて其地早くとて  
人其地跡とて其地より東に北の之津とて其地早くとて其地早くとて

高き河子と取らせし新嘉苑のまじく終んと最  
しよりのわきまに死せんとすらんく新嘉苑  
のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最  
り中よりのまじく死せし嘉苑のまじく終んと最  
よと違ひしつと業をうとあり

鹿道辻

二枝門のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最  
と嘉苑のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

後度

嘉苑のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

藤島井

新嘉苑のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

春日神社

春日神社のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

指九年月 種徳院四号 和銅三年八社護

景雲二年戊申十一月九日二道正統向八つ月此下なる名

一はひく意忠義行く大言權と取れし 和光明にして

利生ありてありあつてけしつひのまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

年神と清造らるる純玉垣暉すきこいお徳の人神は

けりひとけしつひのまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

幣こころなり白幣とてくも光るお器やうり新の志の

新嘉苑のまじく死せし嘉苑のまじく終んと最

ふりまはしつとありしつとあり

春日社陽屋之次第

一之御殿 武甕尊

二之御殿 祝主尊

三之御殿 天津見屋根尊

四之御殿 雄大神尊 海老尊

釋迦 藥師 地藏 記言 其詳は奉りあり

我々もまた此の御座りありと云ふは春日社の御座りあり

是則 大明神の御座り也 古くは春日社の御座り也

二世の御座りあり神前・稻垣と云ふは林檎の場と云

百二十社社と云 二月と申は神田極と云ふ春日祭に先

勅使らあり二月と申は霜月と申はあまのつと云ふ

新道と云ふの御座りあり依の御座り細と略し

御八幡屋

神前・御座りあり御八幡と云ふは春日社に御座りあり

と云ふは春日社に御座りあり御八幡と云ふは春日社に御座りあり

皮らと云ふは春日社に御座りあり御八幡と云ふは春日社に御座りあり

春日社に御座りあり御八幡と云ふは春日社に御座りあり





月をあらはし置不(四)もあてけ清いつり人死る守りあり  
きまてし守り海り着けしをよ守りしと家の権り  
時死る守の権は神鬼とふ合るるとくと時死る摩の  
ふたしふあせくとふ断は神と清い後人の信正としひ  
りるとまより鏡のの神の前とあつくと岩園寺命  
ふ同じ権操信正とつりしひとる若い十房まをりつり  
しひ一守りあつとるまより鹿野園へつりてはたそ品鏡  
はの内こ染と肩あせんとそ瑞路細靴の山名と脱履  
敬初なる神もとあはひとく心佛生滅の神はを伝は  
いり鹿野園とつりてあく

本宮嶽

大明神はしな地と教向しつりて考御前平  
あさしつりし此作の山はるまよりあつとるこま  
おまこくまをこつりつりあつとるこま  
いふこつりつりあつとるこま

名のつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

若代つりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

御法前  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

船戸社  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり







華嚴院と云 弘法大師の沖鏡 家徳公御誕生乃

四時常良也中ノ門ありては法といふ事なくせしと

中門

ししは権北の足門玉をうらとくししは石と  
ありあり

大佛殿

十六丈の尊像也額文恒統華嚴寺と云せり  
とあり 弘法大師の清光ノ前ノまき 燈籠を

とくこの人といふ事なく大なる燈籠をい 燈籠のい

とあり 金子のまうとせりと云 同前を平作とらそ

首平平而初の大流と運しと皮大伽藍と焼きたる昔

法後宗室源と云 再興しと 年久あるをり如く 弘福十

年十月十日卯の刻に焼く人し和考

弘福の十月十日卯とありの大仏なる卯の刻

とあり 和考信貴と云 和考禪正平経の答と

とあり 皮ひひ結の年といふ平經と縁付たる湯のあ

らうにありし大まのこといふ也と云く 弘法公の由あり

信貴云といふ事あり 再と云中を云と云 同くありと

進まといふと 弘法初とあり 弘法初とあり 弘法

門は弘法寺一門 二世日向寺 下野と 岩女主祝由と將

しと大仏殿に陳列と云つと 弘法初打しと云定年

乃弘法寺の再興と云とあり 弘法寺の再興と云とあり 弘法寺の再興と云とあり





新選を  
御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

新選を

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

法華堂

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

御本意ハ河津迄御来と  
安河津一付の御来

相引阿利利山大山寺と申すありてうきとらぬは青龍  
指現とまほしき法の法をそへて後へ流るあり

### 二月堂

御抄の十一面観音とて秘伝の二月朔日  
二月の行はるる玉もさしりてまへ

實意和あるに引道玉乃結完にいくけしと付囁して  
月やとめりふ重観音の指引難波の浦やとめりて  
守の御書もやとめりて難波の浦やとめりて  
うへに揚るありてしるべきまへに合輪降りの生か  
石のとまほしき行の法も通れとて又此  
とまほしき御書井よめりてしるべきまへに

一章しあるに井より則河と流るべく水通に井  
よあまの御書に御書後園是乃御抄の御書より  
ふとて皮取るとりての月半玉と押へ皮半玉とて  
御書御抄たるとりて御書御抄の御書御抄  
の大小の御書とまほしき御書とて御書御抄  
御書御抄は御書御抄とて御書御抄の御書御抄  
行の御書御抄の御書御抄の御書御抄の御書御抄  
燈の御書御抄の御書御抄の御書御抄の御書御抄  
とて御書御抄の御書御抄の御書御抄の御書御抄  
とて御書御抄の御書御抄の御書御抄の御書御抄







沖津御依合心徑有月之結御結と大師の御依ひ  
ちの井さといふくは守は守を

東りいハ ちのくくくく ちのくくく

くくくくく ちのくくく ちのくくく

明かりり ちのくくく ちのくくく

くくくくく ちのくくく ちのくくく

あやまてく ちのくくく ちのくくく

のくくくく ちのくくく ちのくくく

くくくくく ちのくくく ちのくくく

あまの柳の いの柳の しじくくく

くくくくく 花の柳の 柳のくくく

あまのくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく

くくくくく 花のくく 柳のくく



ついでに... 時めくを...

ゆり... せう...

たう... せう...

うと... せう...

ち... せう...

あ... せう...

角... せう...

手... せう...

た... せう...

り... せう...

戒壇院

律... せう...

作... せう...

漢... せう...

よ... せう...

受戒堂

け... せう...

と... せう...

皮... せう...

穀屋

沖... せう...

倉... せう...

四智坊

聖... せう...

人運任を授けしに依りては名村に遊行基の  
家別の人々 善美帝より善薩号に浴しし波羅の  
信正天皇の人々もさきさき其寺に修業す  
并ひて世に傳ふるに兩波羅の信正行基并乃  
のゆとりなり

長仙の精進のりしに果てしき女持をひかひりしれ  
行基并乃のり

伽藍羅ありたり果てしきと又珠の山敷相うつり  
行基の善美帝の産の地ありしに在りし西のりし  
係りありたり波羅の文殊の靈化あり依りて又珠の

山敷のりしに依りて

智度院

律宗の山敷の地あり 善日大明神の中  
地へ毎月一日より十日に於て 楊梅 實は

梅ありたりし事あり其地ありしにありし事あり  
無異し其精進潔齋の地ありしにありし事あり  
地へ見ゆすは地ありのりしにありし事あり  
より此處へありし事ありしにありし事あり

寶藏

勅封ありしにありし 況水 紅塵 蘭香待字  
の名もさき下しにありしにありしにありし

ゆたなりしにありしにありしにありしにありし





善心と書下りしを又薬師寺に相授守ふ事あり  
てよりあはれなき事ありしゆり又市の垣より信正行  
その心持を同あしりし十八町の所神を同國と云ふ  
是れ此の構へ其心は心持の心業修徳の心業を修人  
い寺は相代の國魔大土まことなり人々を國  
善鏡寺 八雲と云 同地元并る事心沖此修徳心  
又板橋の女め并有真心の沖堂之同あり事あり業の心  
果有申渡は乃鏡皮燈の下より出くい寺ありて境中  
後好へ海よりくくありし源頼朝公大板橋法光 向心  
てま東条清題しし心成りし事とて公教の心業修徳

と教ひし轉客の同と云ふ

### 杖園社

高寺の作樂の作樂舟の沖に素盞在りて人  
也等の國よりも鹿乳は鹿乳の島女稻原

と興りてはひしくは波乃大蛇と云ふ人ありてと云  
唯と相せりしり

八雲と云ふ心守垣つまこありし心守垣地その八雲垣は  
と云ふ子の極界の極くし事とわの道と云ふん  
人いありし事とわふくし事沖津と云 清和天皇御  
自記十一歳し沖津と云ふ事とわの道と云ふん  
年を後し事とわふくし事とわの道と云ふん 平頭天皇御

神くしりなりて 藤氏將まの天下痘瘡の皆とらん  
子孫のうせもあし 白雲の子んさうの藤氏將来の子孫とま  
われとくろそい 南よ遊昇斗とまこをたぬとてし  
茶のぬ、用ゆらぬぬ

あしきさあああさからうんやうのひらとて  
お山しゆきことりも集よらんとてのひらとて  
あしのねとて額の文曰 今歳明王御天宮護國寺

雲居板  
平貝の所しつとまよまを昇坂の軒八家  
乃才かあり

車橋  
雲升坂の南へ 見気なを此とまよとてし

とて海をらうとてあうとてとて車輪行行人ハ驚くやめ  
秋の神海唐志あひし時唐人よあてま 見よとて  
あきあうと有や 雲海唐志直日申、車三輛か  
らくと木海とてとて唐人いともとて月とてぬ相え  
十日海、ゆひとてとてあうとてとてとて  
木海とてとてとて 横橋むらとてとて車三輛かぬ  
あま車輪のうとてとてとてとてとてとて  
つとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとて

奈良町 雲居板とてとてとてとてとてとて



高きありしやみちのちかきもたふしとたのほし  
 いふくのありけりしとていふもなき事なりし書置  
 のをいふる事しに集まりありしとていふもなき事なりし書置  
 にいふ人の物なりしとていふもなき事なりし書置  
 ありし事なりしとていふもなき事なりし書置  
 ありし事なりしとていふもなき事なりし書置  
 ありし事なりしとていふもなき事なりし書置

南都託願願終

真福寺一寺門

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 相院  | 相院  | 正法院 | 持神院 |
| 新務  | 西教院 | 西教院 | 福也院 |
| 久保院 | 蓮花院 | 久保院 | 新神院 |
| 福家院 | 竹林院 | 唐院  | 新也院 |
| 慈尊院 | 新宮院 | 河津院 | 聖徳院 |
| 南岳院 | 新福院 | 新福院 | 二徳院 |
| 松皮院 | 西教院 | 法華院 | 大徳院 |
| 福家院 | 海蔵院 | 大徳院 | 金勝院 |
| 真福院 | 宝徳院 | 松之坊 | 大徳院 |

七溪時鐘院

南光院

洞光寺

三教院

悅院

妙德院

妙法院

无量壽院

正知院

福生院

妙寶院

如意痛院

廣居珠院

寶苑院

龍喜院

法雲院

善提谷

苑福院

淨名院

中淨院

妙光院

三寶院

蓮華院

真善院

明覺院

妙福院

南井院

賢聖院

金華院

心王院

延壽院

惠心院

圓明院

多心院

法如院

成力院

養賢院

妙法院

法華院

圓通院

蓮花院

寶光院

山之上一

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 慈心院 | 千手院 | 中興院 | 知恩坊 |
| 大聖院 | 亦聖院 | 慈明坊 | 妙法坊 |
| 乾巖院 | 慈恩院 | 常春院 | 寶光院 |
| 寶壽院 | 慈光院 | 珍苑院 | 如法院 |
| 蓮花院 | 慈德院 |     |     |

右知行總寺今寺方六千二百餘石九乘也

東之寺

|     |      |     |     |
|-----|------|-----|-----|
| 唐禪院 | 深井坊  | 西藏院 | 大悲院 |
| 四會坊 | 无量壽院 | 高光院 | 密雲坊 |
| 柏枋院 | 正德院  | 如福院 | 妙法院 |
| 清涼院 | 柏寮院  | 北林院 | 觀音院 |
| 不動院 | 寶壽院  | 禪花院 | 最勝院 |
| 地苑院 | 文殊院  | 藥師院 | 佛性院 |
| 善性院 | 蓮花院  | 金珠院 | 掘之坊 |
| 見性院 | 中性院  | 上性院 | 上之坊 |
| 金苑院 | 自性院  |     |     |

右知行古戴千戴百拾壹石四斗八合



